

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171700469		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム鴻巣		
所在地	埼玉県鴻巣市登戸309-1		
自己評価作成日	平成27年 1 月 25 日	評価結果市町村受理日	平成28年 5月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvoCd=1171700469-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F
訪問調査日	平成28年 2月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新興住宅街と昭和の面影や自然が織り交じり暮らしやすい地域です。近くに公共施設の学習センターがあり、15分程で荒川河川敷にも行け、ご入居者様に穏やかに過ごして頂ける環境が整っております。近隣の方々や自治会・民生委員様・ボランティア様との連携も図れ地域に根付いたホームです。又、ご家族様との関係も良好で、全体行事は元より毎月のユニットの行事にも参加ご協力頂いております。「いつまでも笑顔でいてもらいたい！その人らしい生活を送って頂きたい！」その方の思いを大切に、わがままの言えるホーム作りを目指し、ホームに訪れた全ての方々于心よく感じられる空間や、安心できる人間関係が築けるように日々努力致しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自立支援」の実践、「手をかけずに、目をかける。利用者を把握し、一人ひとりのペースに合わせた支援を実施、やさしいだけが思いやりではない。能力を奪ってしまう。だから自立支援は大切だ。」と説明を続けて、全員で共有し、対応の工夫をしている。面会者や、近所の人がいっでも出入りできるように、玄関を開放している。利用者が外に行きたくなった時は、職員が気付き、一緒に行動するので、一人で外出する人はいない。事業所の存在は、地域において周知されており、地域密着型事業所として根付いている。食事は、全体の食事会にしたり、メニューの工夫をして、おいしく楽しく食べられるようにし、希望があれば、回転寿司や食べ放題等計画して、あちこち出掛けている。今後は、オレンジカフェの開設や、ミッケルアート(回想法)に取り組む予定がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は唱和するとともに、理念の実践を心掛けたケアや行動としている。職員採用時に提示し、理解・共有するとともに、理念の骨子として、内容を掘り下げた教育や説明も実施している。	法人理念の他に、会議で毎月ひとつ事業所目標を作成する。今月は「インフルエンザの予防」を目標として、感染者が出ない様注意し支援している。自立支援を基本方針として、事務所に掲示し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会防災協議会や各種会合に参加協力するとともに、催物に近隣住民を招待するなど、日常的な交流が深まっている。	地域の自主防災に職員と利用者で参加し、炊き出しや防災ブースでの体験を行った。事業所行事には近所の人々が誘い合ってきている。近所の小学生が「鍵が無いので、ここに居てもいいですか?」と来てくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会防災協議会での防災訓練では、高齢者や認知症の特性を説明する他、各種会合においても説明を実施。また、認知症サポーターとして、地域の方々の理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や地域の方々の意見や要望を取り入れている。これらの良好な関係構築がサービス向上に活かされている	会議は7~8名の参加で定期的に行われ、それぞれの立場から意見交換が出来る場となっている。食事会や行事と一緒に会議も検討中であり、希望に挙がったオレンジカフェは、暖かくなったら始めようと検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議だけでなく、定期的に運営状況の報告や相談の機会を設けている(月1回以上) 関連会合には、必ず参加し、協力と信頼関係を築くよう取り組んでいる。	書類、事業所案内を届ける際に営業も兼ねて窓口を訪問、顔馴染みとなっている。メールで研修会の知らせがあり、地域包括からは地域ネットワークの情報連絡をもらう等、会議、研修会に参加、連絡をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ポスター掲示による注意喚起や採用時教育にて、理解を深めている。各会のユニットドアは、夜間時を除き、常に開けておくことその他、玄関についても、季節や気温により、開放したままにするなどの配慮と取り組みをしている。	「何が拘束か」理解はしているが、玄関開放には職員の反対があり、「誰の為か、職員都合・業務優先になっていないか」話し合い、玄関を開放する状態となった。家族からも「危ないのでは」との声が出たが、見守りを徹底している等を説明すると安心される。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止だけでなく、虐待前段階の“不適切なケア”も研修実施し、予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政や地域包括との相談やホーム内研修により、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に、重要事項説明を詳細に分かりやすく説明することに努め、理解・納得後に契約締結としています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会・来所時に意見・要望を聴く機会を設け、アンケートにより運営やサービスに反映させている。	面会時にフロアでお茶を飲んでいる時声を掛けている。食事内容や入浴日等知りたいとの声には、献立表や入浴日に印をつけ様子を書いたものを送る。清掃への声があれば、清掃を徹底する等すぐに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期面談や各ユニット会議などにて、意見・要望を聴く機会を設けている。又、年1回職員アンケートを行い運営やサービスに反映させている。	管理者が定期的に現場に入る為、ケアの確認ができ、話を聞く事もできる。定期的に開催する誕生会を「個別に」との意見があり、個別の誕生会に変更した。外出時家族が不安であれば職員が同行することもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度に充実の他、スキルアップの機会を設け、やりがい・向上心を持って働ける環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフレベルや経験に合わせた、個別指導やアドバイスを適時行い、研修参加を促進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業事業者との交流は深くできており、相互訪問やネットワーク構築ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	行政や地域包括との相談やホーム内研修により、学ぶ機会を持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約締結前に、重要事項説明を詳細に分かりやすく説明することに努め、理解・納得後に契約締結としています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族面会・来所時に意見・要望を聴く機会を設け、アンケートにより運営やサービスに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	定期面談や各ユニット会議などにて、意見・要望を聴く機会を設けている。又、年1回職員アンケートを行い運営やサービスに反映させている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	評価制度に充実の他、スキルアップの機会を設け、やりがい・向上心を持って働ける環境整備に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	スタッフレベルや経験に合わせた、個別指導やアドバイスを適時行い、研修参加を促進している。	教会に通い孫と会うのを楽しみにしている方、息子と一緒に車で面会にくる方、法事参加の際に家族と共に職員同行する等本人希望に協力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同業事業者との交流は深くできており、相互訪問やネットワーク構築ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	見舞いや訪問の他、他サービスの紹介等、フォローや支援に努めている。		
人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から、希望・意向の把握に努め、スタッフ間の意見調整などにより、本人本位と関わり方に配慮してケアの取り組みをしている。	呼ばれたら無視しないで行き「どうしたいのか」根気よく話を聞くようにしている。言葉での表現が難しい時には筆談、表情、過去の生活歴等をヒントにする。対応時に本人の希望をよく聞く。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントでは、本人の生活歴や生活環境に重点を置き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現存能力を活用し、維持できる取り組みとケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアスタッフの意見や発想を反映し、実情に沿ったケアプランの作成に努めている。	カンファレンスを行い、本人、家族の希望を入れ全員で作成している。名前を隠しても誰かわかるプランで、通り一遍の計画にならない様注意する。生活の様子を居室担当が手紙に書いたり、面会時報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録から、情報共有し、見直しや傾向対策に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズや要望に対して、柔軟かつ臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域会合などの協力を受け、楽しみや豊かさを実感できるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医との関係構築の他、近隣の医療機関との良好な関係構築や通院の支援など、適切な医療を受けられるように努めています。	往診医に全て診てもらえる。体調不良時は往診医に相談、指示をもらう。近所の整形外科受診時は車いすを使用する。マッサージ、リハビリ、歯科を受けている方もいる。受診後の情報はすぐに家族に報告する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護との情報共有や相談などの、良好な関係や対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症症状・既病歴・服薬などの情報提供を迅速かつ的確に提供するとともに、定期訪問などから、良好な関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時説明の他、早い段階から、往診医や関係機関と調整し、協調体制に努めている。	今までに看取りの経験はないが、指針があり、入居時に説明している。夏に重度化した方の対応を話し合い、食事時間がかかっても口から食べるのが大事と考え工夫、共有している。徐々に食べ始め、今では自分で食べる程回復し、元気になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの掲示の他、演習・訓練実施を定期的に行い、実践力向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の他、地域の防災訓練への協力・参加などにより、協力体制を築いている。	日中と夜間を想定した避難訓練を実施し、近所の方も参加、消火、誘導の体験をしている。地震、火災の際には1ヶ所にまとまる様にと消防署より指導も受けている。マニュアルを作成し各ユニットに提示している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊重、誇りやプライバシー、尊厳に配慮した対応を心がけ、接遇面の向上に努めている。	「何と呼んだら良いか」と聞き、家族に断り本人の心地良い呼び方で声かけしている。申し送り時は、固有名詞は出さない。排泄、入浴時の対応にも表現を工夫し、外で待つようにしている。方言も大切に話をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が、より良い自己決定ができる環境や状況に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向やペースを把握し、希望に沿ったご利用者最優先の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類・更衣などの身だしなみや、理美容についても、本人の希望に対応するよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食卓を演出支援するとともに、盛りつけ、片付けなどを職員と一緒にこなしている。	音楽が流れる中で1品ずつ味わう様に、食事を楽しむ工夫がされている。ワンプレートにせず、トレイを使わない時もある。利用者の食が進むようにメニューを変更して、畑の作物等、旬の物を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状況に応じ、摂取量のチェック・把握を実施し、増減・変化に注意する対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの促進、義歯の洗浄、歯科医師による週1回の往診等、口腔内衛生に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間・リズム・パターンを把握し、自立支援主体の支援に努めている。全介助を必要とされる方でもトイレ誘導を行いトイレでの排泄を促している。	リハビリパンツではなく、布を使用、足元が不安定な方は夜間のみポータブルトイレを使うが、日中、夜間共トイレでの排泄がうまくいっている。退院後はリハビリパンツを使用し、早目に元に戻る様支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬に依存せず、体操や散歩などの行動や運動を働きかけ予防に努めている。また、リズム・ペースも把握し、個々に合わせた対応に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日の限定・設定はせず、本人の希望やペースに合わせて、気分良く入浴してもらうことに努めている。	毎日3人位ずつ希望に沿った入浴となっている。拒否された際は脱衣場まで行って、気分を変えたり、「明日ね」と約束したりする。入浴剤は冬は乾燥を防ぎ、夏はさっぱり系を使い分けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に合わせて、個々に昼寝などもされている。夜間も安眠できるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用も理解し、服薬の実施管理を徹底している。処方の変更・追加・中止時は、細心の注意を払い、経過観察記録を追加するなどの対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や存在を重要視し、各種催物などの開催への協力や、外出・レクの充実を図り支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩の他、本人の希望や季節に合わせた外出を多く設けている。家族・ボウの協力も得られている。職員同行でご家族様との外食等の支援も行っている。	天気の良い日に散歩の声掛けをすると希望者が多い。集団では個々の希望に対応が難しくなる為、個別に対応する。足元に不安のある方は外気浴で楽しんでもらう。家族と出掛ける墓参り、食事等、希望に沿った外出が出来る様、協力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は、事業者保管(金庫内保管)としているが、家族との事前相談により、適時出金できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にやりとりができるよう支援している。実際に、手紙や電話のやり取りも多く、電話の取次ぎなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度湿度の管理の他、掲示物などによる季節感や生活感に配慮し、快適に過ごせるよう工夫を施している。	温度、湿度の管理をまめに行う。いつも適温設定ではなく、上着を脱ぐ、着るにより、調整し、季節も感じられる様に配慮されている。車いすの使用の方は、(リハビリを兼ねて)いすへ移乗する。座った際に他の利用者と目線が合い、楽しそうに話す。	事業所のフロアは利用者が、長時間過ごす場所である。更に居心地の良い空間となるよう工夫することを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置の変更や、ソファの設置など、中間域やスペースを設け、個々に過ごせる場所と空間に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みの物を持ち込むよう促し、落ち着ける環境や雰囲気なるよう努めている。	入口に利用者手作りの表札が、掛けられており、居室内は以前使用していた品が、使いやすそうに置かれている。室温は低めに設定、家族の心配の声もあるが、居室にこもらずフロアで過ごすと言明し、納得されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手摺りを配置。廊下などへのベンチ配置など、自立支援と安全・安心の両立ができるよう工夫している。		